
君を想う（詩です）

あくあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君を想う（詩です）

【Nコード】

N0973B

【作者名】

あくあ

【あらすじ】

君は手を伸ばしても届かないところへいつてしまった。

どうしてなんだろう……

昨日まで隣で笑っていた人が、今日にはいなくなってしまった

未だに私は夢の中にいるみたい

君は「僕が死んだらお葬式に来てよ」なんて
笑いながら言っていたのに……

笑えないよ

笑えないよ

君に言った言葉の1つ1つを思い出して
すぐ後悔して
何も考えられなくなって

涙がただ流れる……

君は、今までの人生を楽しかったって言う？

私の隣で毎日笑ってくれたよね

私の歌を上手いっていいってくれたり

私は………

君に何も返していない

君の笑顔が頭の中を何回も繰り返し巡る

夢に、一度だけ君は姿を見せた

「声、低くなったでしょ」

そう言っていた

君は遅い声変わりの途中だった

笑っている顔は少しぼやけていた

声は大人になっていたね

大好きだった…本当に…

今の私があるのは、君がいたから

毎朝のスタートは

君の「おはよう」と笑顔

恋心なんかじゃない

それを遙かに超えている

みんなみんな君を愛してた

君の白い顔は

言葉を失わせた

辛かったよね

苦しかったよね

1人で苦しんで

現実を認めなきゃいけないのかな？

何度も思う

でも、もし今君の家へ行ったら

「いらっしやい」

そう言って出迎えてくれる気がするのに…

声が聞こえなくなってきたしまったの

君の笑っている声が…

怖い…怖いよ…

いつか忘れてしまうのかな？

君との思い出も薄れていってしまうのかな？

大事に大事にしておきたい

そんなの無理なのかな？

だけどきつと冬が来る度思い出すだろう……

もうすぐ切ない冬が来る

私は今……精一杯君を想う

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0973b/>

君を想う（詩です）

2010年11月24日09時41分発行